

束の間

うめいている雷鳴の目
銃殺

いのちにあいた五つの穴が
乾くまもなく 黒ずみ
印字されたのを知る
それは漫画ページのかたすみ
数行のニュース

その名はやがて
千切れ 遠のいてしまうだろう
けれどひとときかれを流れた午後は
かえることはできない
大通りの名をかえるようには

はおつていた山河を
ひとり ふるえる大気のはしにかけて
息はひいていく その ひえた路面を
ぼくは知っている
ここにぼくはかんたんについて
愛は肉体を着ていた

ぼくは手紙を書いてまわる
地下の通路という通路に
暗い秘密にたえられないから

知らなかった
死のほりではじまる
今日というとほうもない時間は
かなしいほどかやいている